

未来の環境保全活動を担う人材を育てる 若手プロジェクトリーダーの 育成支援プログラム

地球環境基金は、環境保全活動に取り組むNGO・NPOの発展を支援するため、さまざまな事業を行っています。

平成26年度から始まった「若手プロジェクトリーダーの育成支援」もその一つ。審査で選ばれた若手スタッフに対して、3年間の研修と活動推進費の支援を行い、NPO活動を持続的に推進するために必要な戦略を構築し、実践できる人材を育てていきます。

3年間の支援で実践力を磨く

この20年で環境NPOの数は飛躍的に増えましたが、長年その活動を担ってきたスタッフが高齢化しており、環境保全活動を持続・発展していくためにも若手リーダーの育成が急務となっています。そこでこのほどスタートしたのが「若手プロジェクトリーダーの育成支援」です。活動戦略の立案から広報戦略、資金調達、協働、合意形成まで、3年間9回の研修で技能を高め、現場での実践力を磨いていきます。さらに活動に専念してもらうため、年間上限300万円の活動推進費（賃金）も支給します。

初年度となる平成26年は「計画立案に関する体系的な理解、リーダーシップの獲得」をテーマに、成果を生み出す戦略とプログラムづくりを学びます。2回目と



「物事を動かすためにリーダーは何をすべき?」。課題を各自がリストアップ

なる10月は「自らのリーダー像の発見とプロジェクトを遂行するリーダーシップ」がテーマ。1泊2日の研修に16名の若手プロジェクトリーダーが参加しました。



その場で出た気づきや思いは言葉にして貼り出し、共有していく

講師との対話で気づきを得る

1日目の研修は、ファシリテーターに明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授の長畑誠氏を迎えてスタート。午前中は4人1組でグループを作り「リーダーシップが必要とされるのはいつ? 誰に対して? 何のために? その時の課題は?」とリーダー像に対する疑問や課題を整理しました。午後は、NPO、スポーツ、政治、企業と各分野で活躍する4人の講師の方からのレクチャーと、各グループ30分ずつの講師との個別セッションです。異なる

1日目

講師陣（集合写真前列左から2番目より順に）

- 国際協力NGO ACE代表 岩附由香氏
- (株)ドット代表取締役 廣中龍蔵氏
- 東京都多摩市議会議員 岩永ひさか氏
- (株)川崎フロンターレ 伊藤宏樹氏



トップに立ち人をまとめてきた具体的な経験談には課題解決のヒントが満載

視点からのリアリティ溢れるアドバイスに、参加者は多くの気づきを得たようです。

最後に「この支援プログラムの成果は皆さんのこれからの活躍にかかっている（岩附氏）」、「リーダーシップのスタイルは一つではない（廣中氏）」、「人とつながるには自分の弱さをさらけだすこと（岩永氏）」といった言葉をいただいて長い1日が終了。翌日のグループ・コンサルティングで、この日の気づきをしっかりと自分のものにしました。



今回の研修での一人ひとりの気づきをリストアップ。今後に生かしてほしいと長畑氏

ファシリテーター
●長畑 誠氏

VOICE



■(特非)環境ネットやまがた 山田幸司さん

地元のリーダーの育成が大きな課題。若者の柔軟性を活かしつつ、組織を築いてきた第一世代とも意見を交わして実践できる場づくりに、研修を役立てたいと考えています。

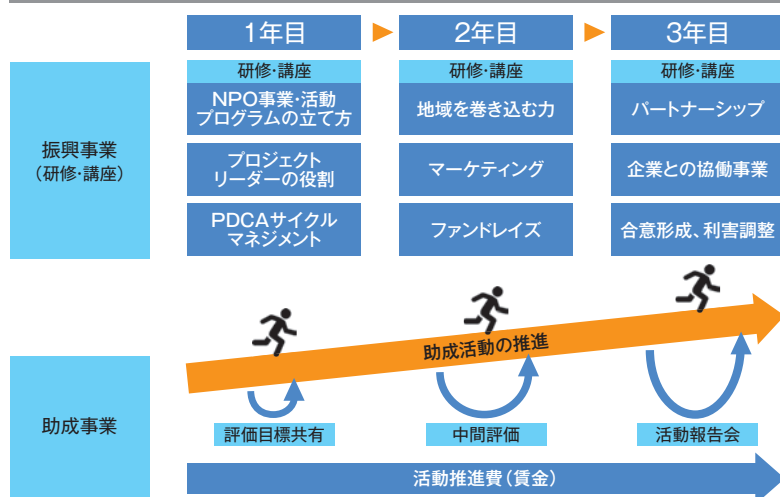
VOICE



■(特非)nature center risen 宮川皓子さん

20年後には300人の若手リーダーのネットワークが築かれるという理事長のお話がありました。第一期生としてスタートに立った同期たちと共に頑張っていきたいです。

支援プログラム・3年間の全体設計



“聞く耳”をもって話し合える 関係づくりを

株式会社 川崎フロンターレ サッカー事業部プロモーション部
2005年～2009年 2012年 川崎フロンターレ 元チームキャプテン
伊藤宏樹さん

チームの中でも日々衝突は起きます。それをまとめるには“聞く耳”を持つこと。自分の意志も大事ですが、人の意見を聞いて同じ方向を向いて話ができるよう努めてきました。そして、オフには仲間と羽目を外してバカをやる。日ごろから互いに話し合える関係をつくり、自分一人で問題を抱え込まないこともリーダーとして大切だと思います。



講師から ひとこと